



2021年11月10日（水） 10:30-12:00

第23回図書館総合展

「学術機関による研究データのキュレーションサービスを考えよう」

ポリシーのその先へ！ ～名古屋大学附属図書館の取り組み～

名古屋大学附属図書館
東山地区図書課
東地区図書統括グループ

田中 幸恵



今日、私からおはなしすること

1. 名古屋大学の学術データポリシー
2. 名古屋大学の研究データ管理支援体制
3. 名古屋大学附属図書館の取り組み
4. 図書館がデータキュレーションを行う
ためには？



名古屋大学の学術データポリシー

● 策定経緯

□ 2018年5月 研究データマネジメントプロジェクト開始

- ✓名古屋大学情報連携統括本部内に設置
- ✓教員以外に、技術職員、図書職員、URAも参加

□ 2019年9月 研究データ基盤整備WG設置

- ✓総長配下の特命WG
- ✓課題の洗い出しを実施

□ 2019年11月 研究データ基盤整備部会設置

- ✓教育研究評議会（全学が関わる会議）の下に位置づけ
- ✓研究データ管理に関する学内ステークホルダー（各部署のトップ陣含む）集合
- ✓データポリシーの策定に向けて審議開始

□ 2020年10月20日 名古屋大学 学術データポリシー策定・公開

【参考】

竹谷喜美江. 『名古屋大学における研究データ基盤整備推進組織の整備について』 第3回SPARC Japan セミナー2019

<https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2019/20200207.html>

『NII研究データ基盤「NII RDC」がいよいよ始まる! : NII×名古屋大学 見えてきた研究データ管理の課題と展望』 NII today. 2021, No. 91

<https://www.nii.ac.jp/today/91/2.html>

名古屋大学の学術データポリシー

● ポリシーの構成と内容（一部抜粋）

- 名古屋大学学術憲章が出発点
- 以下の5項目＋「解説」で用語の定義、考え方などを説明

1. 目的
2. 学術データの定義
3. 学術データの管理等
4. 大学構成員の責務
5. 大学の責務

学術データの管理ならびに公開および利活用を支援する**環境を大学構成員に提供する。**

【参考】

名古屋大学学術憲章

<https://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/declaration/charter/>

名古屋大学学術データポリシー

<https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/datapolicy.pdf>

名古屋大学の研究データ管理支援体制

●大学が提供する支援環境の9要素

1. 学術データ管理のデータプラットフォームを提供
2. 研究データ管理に関する計画や行動の支援
3. 学術データリポジトリの提供
4. 学術データのメタデータ作成支援
5. 学術データ利活用促進支援
6. 学術データに関する契約、法務等の支援
7. 学術データ管理の奨励および実績の評価
8. 学術データに関わる規程・実施要項等制定
9. 学術データの管理、公開、利活用の啓発

※「名古屋大学学術データポリシー解説」を一部要約して記載

https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/commentary/datapolicy_commentary.pdf

名古屋大学の研究データ管理支援体制

●具体的にどうしていくか？

□ 2021年3月～学術データ基盤整備WG活動開始

- ✓ 実務担当者レベルの検討を開始
- ✓ 各部署が持っている（だろう）スキルに準じて担当を整理
 - 図書館が任されることになった要素
 - 要素3：学術データリポジトリの提供
 - 要素4：学術データのメタデータ作成支援
 - 要素5：学術データ利活用促進支援
 - 要素9：学術データの管理、公開、利活用の啓発
- ✓ 各部署で各要素に対する具体的な施策内容を検討中

名古屋大学の研究データ管理支援体制

● 名古屋大学における各部署の役割分担

● 図書館内プロジェクトチームにて具体的な施策を検討

名古屋大学における学術データ基盤の要素と担当

研究データ管理の要素	関係する部署							情報連携推進本部	備考	補足
	執行部	学術研究・産学本部	研究協力部	I R 戦略室	附属病院	教育推進部	附属図書館			
① 学術データ管理のデータプラットフォームの提供										
a データ基盤システムの利用モデルの提示と普及					○			◎		NIIとの連携、ストレージの調達
b 学外共同研究者とのデータ共有環境の整備								◎		認証基盤の整備
c 学術データ用ストレージの将来設計					○			◎		利用者層を想定したストレージの在り方
② 学術データ管理に関する計画や行動の支援										
a 公的資金のデータ管理計画（DMP）の動向調査			◎							科研費の動向ウォッチ
b 研究者によるDMP作成と推進の支援			◎				○	○		AMED, JST, NEDO 等の事例を参照
③ 学術データリポジトリの提供										
a 学術データリポジトリの運用と充実						○	◎	○		JAIR Cloud の活用、公開データの発掘
b 学術データ公開の体制と仕組みの整備						○	◎	○		人材育成、ストレージ・公開手順の整備
④ 学術データのメタデータ作成の支援										
a 学術データのメタデータスキーマの整備						○	◎			JPCOARメタデータスキーマの利用
b メタデータ付与の仕組みの整備							◎	○		メタデータ付加作業環境の整備
⑤ 学術データの利活用の促進と支援										
a 共同研究・産学連携・アウトリーチでの利活用支援		◎					○	○		学外との産学連携活動での利活用の促進
b 教材など授業コンテンツの利活用促進						◎	○	○		学内での共有、学外者の利活用の促進
c 学術データカタログ（名大版）の作成と利用		○				○	◎	○		学術データの案内、リポジトリ等と連携
⑥ 学術データに関する契約・法務等の支援										
a 学術データに関する契約・法務の支援		○			○				法務室等	ライセンス契約など
⑦ 学術データ管理の奨励および実績の評価										
a 学術データの公開・利活用の評価・報酬制度の設計	◎			○						教員・研究者の評価指標
b 学術データの作成・公開情報の収集と利用				◎						教員プロフィールデータベースの活用
⑧ 学術データに関する規程・実施要項等の策定										
a 学術データの保存・管理に関する学内規程の整備	○					○		◎	法務室と連携	10年保存ルールとの関係整理 教員・研究者の退職・異動への対応
b 学術データの保存・管理に関する部局内規程の整備					◎					部局内の管理規程整備の事例形成
c 学術データの知財管理の規程整備	◎	○				○				データの権利・ライセンスの規程
⑨ 学術データの管理、公開、利活用の啓発										
a 学術データの扱いに関するリテラシー教育					○	○	○	○		大学院共通教育科目
b 学術データポリシーに関わる取り組みの普及	○	○	○	○	○	○	○	○		広報・講演会・研修・ワークショップ

名古屋大学附属図書館の取り組み

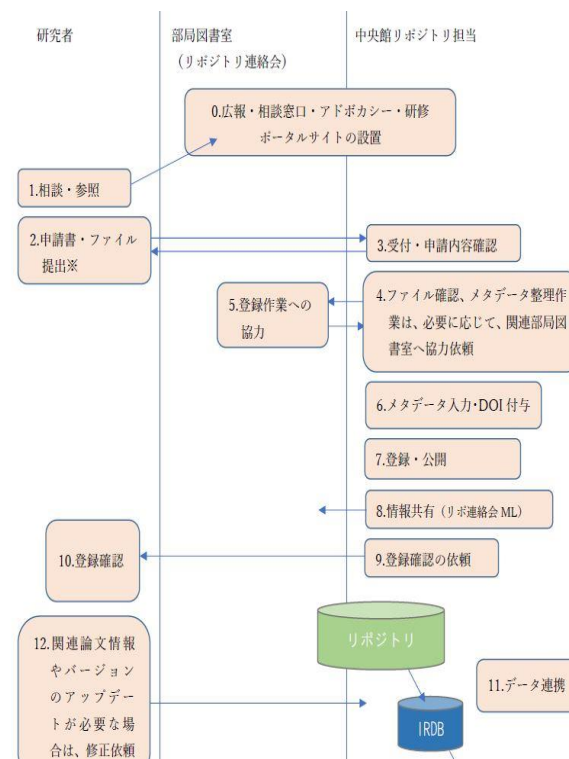
- 機関リポジトリで学術データを扱えるようにする！
 - 名古屋大学学術機関リポジトリ（NAGOYA Repository）
<https://nagoya.repo.nii.ac.jp/>
 - 以前から個別対応で学術データの受入はしていたが、体制を整える

これまで

- ✓ OAポリシーとの整合性チェック
- ✓ リポジトリ要項改訂

これから

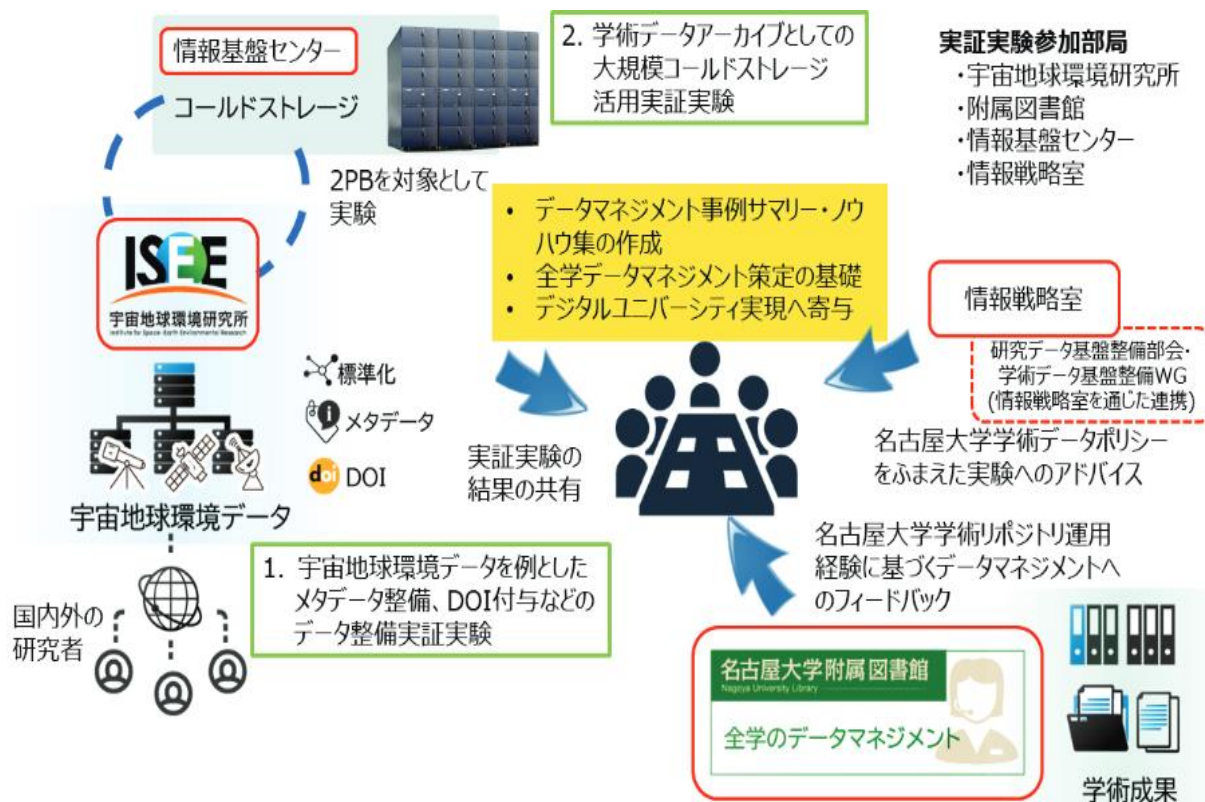
- ✓ 支援体制と公開フローの検討・精査
- ✓ リポジトリ容量増の検討
- ✓ GakuNin RDMとの連携
- ✓ 学内研究所とのデータ登録実証実験



学内研究所とのデータ登録実証実験

●本学宇宙地球環境研究所が収集している宇宙地球環境データをサンプルとした実験に協力

1. データの標準化、DOIの付与、メタデータ整備等のデータマネジメント（IUGONETのメタデータ整備の延長線）
2. 学術データアーカイブとしてのコールドストレージ活用



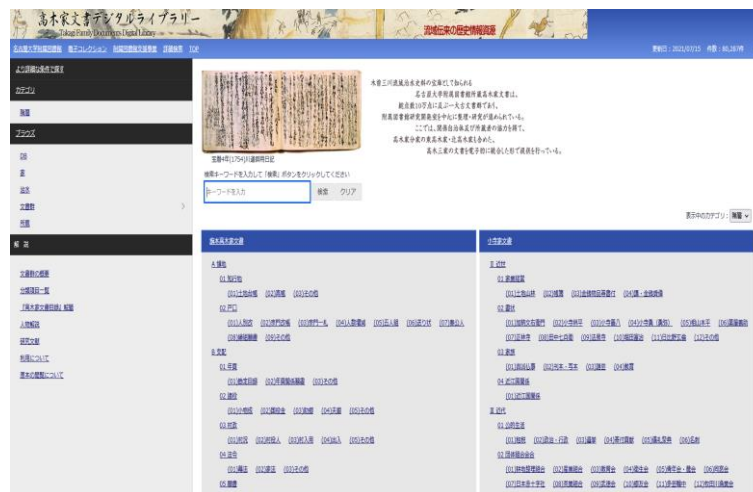
➡ ノウハウを今後の全学的な学術データマネジメントに生かす

名古屋大学附属図書館の取り組み

●公開されたデータを使ってもらえるようにする！

- 情報部門と連携し、まずは一般市民へのアウトリーチ活動に焦点をあて、学術データ利活用の先進事例の形成を目指す
- 対象は本学が所有する「高木家文書デジタルライブラリー」

https://libdb.nul.nagoya-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000011Takagi



これから

- ✓画像のIIIF対応
- ✓より使いやすい提供プラットフォームへの移行を検討
- ✓本学が所蔵するデジタルアーカイブ類の調査

名古屋大学附属図書館の取り組み

- 研究データ管理の重要性と大学の研究データ管理サービスを大学構成員に知ってもらおう！
 - 研究データ管理サービスは、用意したからと言って使ってもらえるものではない
 - 構成員に学術データ管理の必要性を理解してもらい、公開・利活用に向向きになってもらえるようにする必要がある

これから

- ✓ 広報サイトの立ち上げ
 - 年内公開を目標に、図書館から素案をWGに提出
 - 部署をまたいで運用できないか、提案中
- ✓ パンフレット・リーフレット類の作成
- ✓ 構成員向け啓発プログラムや大学院生向け研修企画の検討と実施

名古屋大学附属図書館の取り組み

●公開されるデータに適切なメタデータが付与されるようにする！

- 研究者自身が、公開するデータにデータの利活用と長期保存を見据えたメタデータを付与できるようにサポートする

これまで

- ✓JPCOARスキーマと学術データとの対応検討
- ✓研究データ公開用のメタデータテンプレート（登録申請書）案の作成
 - ・ベースは従来の論文等の登録申請書
 - ・登録申請書には他部署からの意見も反映予定

これから

- ✓メタデータ作成支援者（**キュレータ**）の育成
 - ・学内研究所とのデータ登録実証実験からのフィードバック

そもそも、
キュレーションって何？

キュレーションは
何のために行うのか？

キュレーション？

●辞書的な意味

“キュレーション”

インターネット上に無数に散らばる情報を、収集・分類・再構築し、そこに価値をもたせてネット上で共有すること。それを行う人はキュレーターとよばれる。本来は美術館や博物館における、展示物の収集・分類・整理、およびわかりやすい提示などの業務全般をさし、それが転じてIT用語として使われるようになった。検索エンジンと異なるのは、人間の目を通して情報の取捨選択を行うため、むだが少ないことである。また、まったく別の分野の情報が、相互に結びつくことで新しい価値が生まれるなど、ネット情報を体系的にとらえることが可能になる。ツイッターやフェイスブックなどのソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）で多くのフォロワーを集め、有益な情報をタイミングよくリンクすることも、キュレーションといえる。美術館や博物館の場合と異なり、ネットにおけるキュレーターに資格は必要ないが、ものごとを幅広くみて、確証のない情報を排除して、信頼できるリンク先を的確に提示するセンスが求められる。

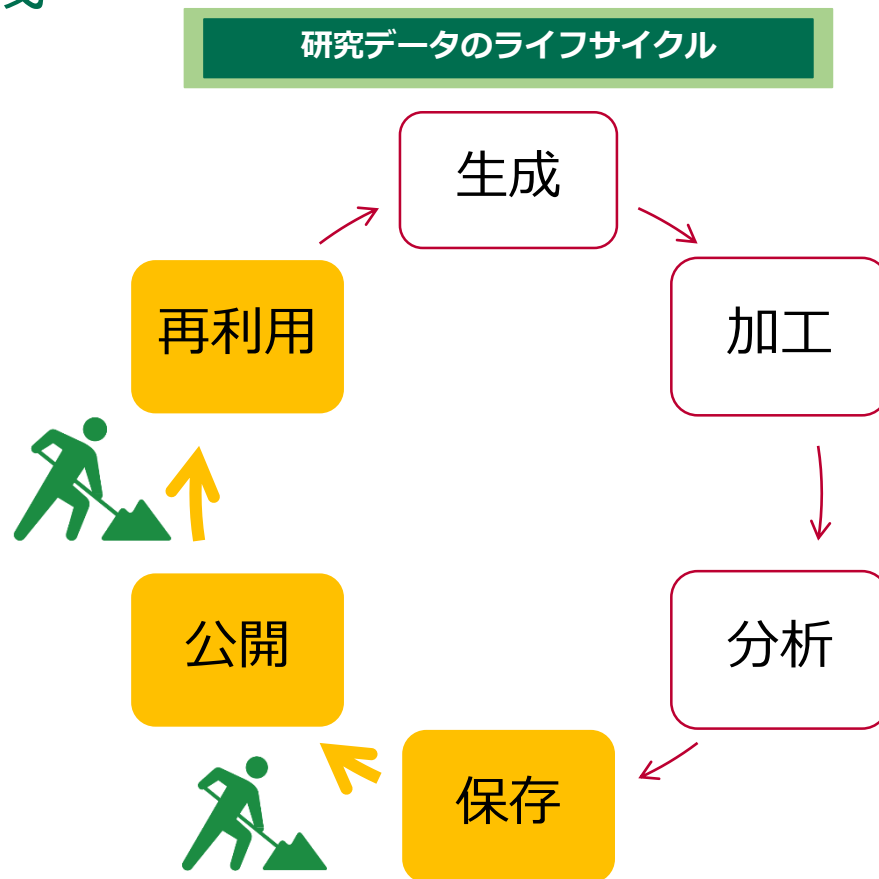
日本大百科全書（ニッポニカ）, JapanKnowledge, <https://japanknowledge.com>, (参照 2021-10-25)

キュレーション？

- 個人的に腑に落ちた定義

作り手と
それを使いたい人を
繋ぐための仕事
= キュレーション

佐々木俊尚. キュレーションの時代: 「つながり」の
情報革命が始まる. 筑摩書房, 2011, 311p. より



図書館がデータキュレーションを行うためには？

●これからの課題（私見）

✓研究者とのコミュニケーション

- 研究者は、今までもデータを管理してきたはずで、その実態は知るべき
- どんな研究データをどう扱うべきかのニーズは本人たちに聞かないとわからない

✓自機関ポリシー以外のポリシー類や規程類との兼ね合い

- 国の要請や研究費助成機関の求めること、ジャーナルのデータポリシー等にどう対応していくべきか

✓研究データ管理支援者となる各部署間の当事者意識向上とヨコの連携強化

- 相互協力が超重要

cf.) NIIオープンサイエンス研究データ基盤作業部会トレーニング・サブ・ワーキング・グループ. 「研究データ管理支援人材に求められる標準スキル (ver.0.1)」 <https://doi.org/10.20736/0002000219>

※NII学術情報基盤オープンフォーラム2021でもご紹介→https://www.nii.ac.jp/openforum/2021/day3_rcos6.html

図書館がデータキュレーションを行うためには？

- 最後にお伝えしたいこと・・・
 - 課題や懸念事項は他にもたくさんあり、幅広い知識とスキルが必要
 - 不安感もあるが…前向きな言い方をすれば、図書館ができることはたくさんあって、「大変だけど、おもしろい」おしごと（のはず）

立場や機関の規模に関わらず、事例・情報共有を行って、自機関だったらどうしたらいいだろう、とみなさま一緒に考えていきましょう！



ありがとうございました

